

ンミニプタを用いた比較研究
ES細胞注入キメラのための胚ドナーとしての過排卵マウスの使用

実験動物アレルギー：モニタリングおよびコントロールの観点から

No. 41 平成5年9月20日発行

増リンパ球トランスジェニックモデル作出のためのジーンターゲットング技術

実験条件下における動物の痛覚試験の新方法

動物の梱包、輸送および受領の状態について

ニュージーランドホワイノウサギ用雌ケージの改良

生物医学研究用ミニプタ：利用と管理

No. 42 平成5年11月20日発行

抱水クロラールおよびクロラローズによる実験動物の麻酔についての再検討

実験用マウスとラットに対するアレルギー：その予防、管理、処置について

アルビノラットと有色ラットにおける光感受性ラットの社会的行動における動物行動学的研究

実験用サル飼育担当者の労働環境の改善

安全性試験に用いられる実験動物数の低減

No. 43 平成6年1月20日発行

可移植腫瘍、細胞株およびモノクローナル抗体のげっ歯類ウイルスによる汚染

ストレプトゾトシン保存用平衡溶液を用いたシリアンゴールデンハムスターにおける糖尿病の誘発
選択育種された WHHL ウサギの血液学および生化学的プロファイル

ウサギモデルにおける排卵のための性腺刺激ホルモン放出ホルモンの使用

簡単なプタの採血法

No. 44 平成6年3月20日発行

毒性試験と遺伝的品質コントロール

遺伝子導入マウスを用いた突然変異誘発試験の方法に関する賛否両論

近交系およびアウトブレッッド系げっ歯類にみられる疾病の多様性

ウサギにおけるコロナウイルス抗体の保有率

マウスにおける飼育因子と年齢依存性アミロイド症

パラインフルエンザウイルス3型に実験感染させ

たモルモットにおける気道過敏反応の経時的研究
実験用ビーグルイヌにおける個体同志の遊びと攻撃行動に対するケージの大きさの影響

実験用近交系ラットおよびマウスの遺伝的モニタリングのための DNA フィンガープリント

チンチラからの大量採血法

No. 45 平成6年5月20日発行

実験用ブタ飼育および研究技術の基本

実験用ラットの集団飼育システムの改善—予報

小型実験動物の苦痛のコントロール

ゴールデンシリアンハムスターの体表面積(BSAs)

算出のための新しい計算式

マウスの長期飼育を必要とする研究に関連する飼育方法と健康問題

げっ歯類を用いた感染防御試験における動物福祉の指針：げっ歯類を用いた感染防御試験特別調査委員会報告

PCRを用いた Kilham ラットウイルスの診断

PCRを用いたネズミ RNA ウイルスの検出

日本実験動物協会から送付された小冊子として、イヌ・ネコの生産に関するアンケート調査報告書(平成5年6月)、英国：実験動物の輸送に関する取扱い指針(平成5年8月)、実験動物および鳥類からの血液採取 第1報(平成5年8月)があります。

他の研究会からの送付物の紹介

関西実験動物研究会、静岡実験動物研究会、九州実験動物研究会から会報が送付されていますので紹介いたします。

関西実験動物研究会報(12号)平成5年5月発行

巻頭言：関西実験動物研究会10周年を迎えて

-----高 高 宏彰
(第29回研究会)学術講演会：ミュータントマウスを用いた精細胞分化の解析-----西宗 義武
赤血球の連鎖形式と γ -グロブリン-----志賀 健
(第30回研究会)講演会：ヒマラヤ高地でのニホンザルの生理的諸事象-----松林 清明
ニホンザルの生殖生理学的特性と室内人工繁殖の試み-----鳥居 隆三

関西実験動物研究会報(13号)平成5年12月発行

- (第31回研究会)講演会：マスト細胞欠損動物
 -----北村 幸彦
 私の研究と実験動物-----野村 大成
 (第32回研究会)特別講演：ジャクソン研究所につ
 いて-----小泉 勤
 (第33回研究会)講演会：発生毒性試験における *in*
vitro 試験法とその意義について-----塩田 浩平
 イヌ、ネコ寄生虫卵による環境汚染について
 -----及川 弘
 (第34回研究会)講演会：Gene Therapy: Pros-
 pects and Progress-----Edward H. Schuchman

静岡実験動物研究会々報(20巻1号)平成5年発行

- 特別講演要旨：ラットの遺伝子マッピングにつ
 いて-----芹川 忠夫
 特別講演要旨：実験動物の臨床検査値の読み方
 -----谷本 義文
 施設便り：静岡県立大学-----木村 良平

九州実験動物雑誌(9号)平成5年発行

- 特別寄稿：向精神薬の生殖に及ぼす影響
 -----浜田 佑二
 原著：野生げっ歯類からのマイコプラズマ分離及
 び同定ならびに分離株のマウス、ラットに対する
 病原性-----斉藤剛敏，興水 馨，土屋公幸，
 和田俊雄，Raul O. Cerda
 (第10回研究会)特別記念講演：これからの実験動
 物に思う-----山内 忠平
 シンポジウム「十数年前に流行したイヌ感染症の

その後の推移について

- (1)イヌブルセラ病について---浦野 徹，和田俊雄
 (2)イヌパルボウイルス感染症
 -----内布洋一，村川泰司，石津彰博，半田純雄

日本実験動物技術者協会からの送付物の紹介

日本実験動物技術者協会(広報編集委員会)から
 広報と協会案内のパンフレットが送付されていま
 す。広報(1994, 第14号)の内容を紹介いたします。

<主な記事>

総説I 日中政府間協力事業「中国実験動物人材
 育成センター」プロジェクトの幕開け

-----浦野 徹

総説II 動物病院と実験動物学教育の接点

-----梅井富士朗

やってみよう マウス・ラットからの肺マイコ
 プラズマの分離方法 初歩の技術12

-----中村直子，高倉 彰

報告 中日技術交流に参加して

-----田中富蔵，近藤惺吾

<話題，その他>

ヒト遺伝子を持つ豚バイオ技術で誕生，薬草の
 「何首烏」がん細胞抑制ラットに「ベツツピレン」
 実験タンニンが効果？，アルツハイマー病トラン
 スジェニックマウス課題は形質の次世代への継承，
 等の記事が紹介されています。